



カトリック笹丘教会

教会 ニュース

2013年

9月号

福岡市中央区笹丘1-16-1

☎761-4504 F761-4524

広報委員会

十字架称賛



主任司祭

遠山満

先月、私たちの教会で、司教様をお迎えして堅信式を挙行できましたことを神様に感謝いたします。また、堅信式とアウグスチノ祭を同時に開催するにあたって、陰で支えて下さった多くの皆様に心より御礼申し上げます。堅信を受けられた兄弟姉妹が、これから教会の中で、自分のタレントを活かしながら活躍されますよう、今後とも皆さんのお祈りを宜しくお願い致します。

堅信式当日は、生憎の天気ではありましたが、福岡教区の皆さんにとっては恵みの雨だったのではないかと思います。堅信式の数日前から、雨が降り出して、福岡や多くの地域の水不足が解消されました。そして、今もなお、その雨が降り続いています。考えてみれば、このようなことは、私たちの人生の中に多いのかもしれませんが、それは、私たちにとって、涙を流すような苦しい出来事が、他の人々にとって、恵みとなるような出来事です。

ところで、今月の14日(土)は、十字架称賛のお祝い日です。この日の起源について、『毎日のミサ』には次のように書かれています。「エルサレムでは既に5世紀から、復活聖堂の献堂を記念する9月13日の翌日に、キリストの十字架を礼拝する習慣があり、これは次第に東方教会全体に広まった。ローマにこの習慣が取り入れられたのは7世紀になってからである。今日は、キリスト者の救いと勝利の希望であるキリストの十字架を思い起こす祝日である」。イエス様は、ご自分が十字架の苦しみをお受けになることを通して、私たちが悪霊の支配下から救い出して下さいました。ですから、今日は、十字架上でご自分を捧げて下さり、今も捧げ続けて下さっているイエス様を讃える日です。

しかし、私たちは、十字架のイエス様を讃えるだけでなく、私たちもイエス様の後から十字架を背負って歩む決意を新たにしましょう。何故なら、私たちがイエス様の後から、十字架を背負って歩むことを通して、多くの人に喜びをもたらすことができるからです。第二バチカン公会議前、観想修道会では、この日から次の年の復活祭まで、大齋が行われていたそうです。それも、キリストの十字架の苦しみに参与する、一つの在り方だったのだと思います。私たちも、私たちの担う十字架が、周囲の人たちに喜びをもたらすことを、この日、改めて思い起こすように致しましょう。

拡大信者会議事内容

日時：9月1日（日）11時15分より

場所：信徒会館ホール



1. 初めの祈り
2. 主任司祭挨拶
3. 議題

1) 敬老会について

日時：9月22日（日）10時ミサ後開始

場所：信徒会館ホール

* 10時のミサでは、高齢者、病者のため、病者の塗油が行われる予定。
希望者はミサ中に受けることが勧められる。

2) 建設二年目点検について

日時：9月21日（土）13時より

内容：一年点検の際列挙した点を再確認し、新たに生じている不具合箇所を加筆しておく。

3) 典礼関係者集会の報告

去る8月18日（日）に典礼関係者の集会が行われた。

その中で出された二つの要望

- * オルガニスト、先唱者を募集してほしい。特に、土曜日19時、日曜日8時のミサにおける奉仕者。
- * 10時のミサ前に静けさを保つように心がけてほしい。ミサ前に10分程度の祈りをして、ミサに臨むための雰囲気を作るようにしたい。

4) その他

* 幟作成について

以前作った笹丘教会の幟が紛失しているので、新たに幟を作りたい。
作るにあたって、デザインを公募したい。締め切りは9月末。詳しくは信者会役員へ。

* 掲示板について

信徒会館の壁面に取りつける掲示板、及び道路に面した掲示板を新たに作るため、現在検討中。

4. 終わりの祈り

5. 次回の拡大信者会…10月6日（日）10時ミサ後の予定



堅信おめでとうございます

平成25年8月25日



小5 ペトロ田中大海 フランシスコザビエル古曳正哉 マリーテレーズモロ古川舞乃

小6 テレジア笹栗はな恵 セシリア辻部珠子 ミカエル浅田峻多 ユリウス竹島竜真

中1 ルドビコ茨木 品川竜乗 アンナ染野天来 クララ田中麗菜
小さい花の聖テレジア山口愛 ベルナデッタ小林倫香 洗礼者ヨハネ藤村一成

中2 マリア廣田佳菜

成人 ミカエル黒崎勝喜 ミカエル黒崎京介 マリアエリザベト市瀬由佳
テレジア橋口啓子 マリア・グラシア福島綾子



堅信式を終えて セシリア辻部珠子



堅信の勉強では、堅信はどのようなものなのかとてもよくわかりました。堅信式で、思ったよりもきんちょうして、言う言葉などを忘れてしまったりしたけれど、聖霊の恵みを受けることができたのでよかったです。また教会の一員となるということが印象的でした。これからも教会の一員として、お祈りすることや、日曜日にはミサに参加することなどを大事にしていきたいです。いろいろな準備をしてくださってありがとうございました。



堅信式を終えて

ベルナデッタ小林 倫香

8月25日は大人の信者として第一歩を歩み始めるために堅信の秘跡をいただいた大切な日となりました。部活などでなかなか教会に行けなかったり合同の勉強会に参加できず補習を受けたりして、正直に言うと、「あ〜これでやっと堅信を受けられる〜。」というほっとした気持ちばかりを持っていました。けれども、『今日の日はゴールではなく、スタートです。』という宮原司教様のお話を聞いて、こんなことを思っていたことを反省し、これまで教会のたくさんの方々にいろいろなことを教えていただいたり、声をかけてもらったり一緒に遊んだりする中で今の私があることに気づきました。これから学年が上がったり、高校に入ったりするとますます忙しくなり、教会から遠くなってしまうかもしれません。そんなときにも、今日の日のことを忘れずに、教会の一員であることを自覚して、過ごしていきたいです。

最後に、司教様、神父様、長い間多くのことを教えてくださっている教会学校の先生方、そしてともに祈り、お祝いしてくださった教会の皆さま、ほんとうにありがとうございました。私はこれからも大好きな教会の友だちや皆さまと深くつながって、光の子として、笹丘教会と歩んでいきたいと思います。



聖霊来てください！

～堅信について思う～

川原義広

私の堅信式は1965年に長崎の大浦天主堂(国宝の建物)で当時の山口愛次郎大司教様の司式であった。1965年は長崎のカトリック教会にとっては特別な年であった。それは、長崎の信徒発見100周年の記念すべき年であった。そのため、長崎市内の教会の合同堅信式で、数百名の仲間たちと一緒に堅信を受けた。小教区では厳しい勉強であったことは今でも鮮明に覚えている。筆記試験はもちろん、聖堂で父兄が全員そろっている前でのひとり一人ずつ主任司祭からの口頭試験。試験を受ける本人よりも、父兄等の緊張は半端でないことはその場の雰囲気がいやと言うほどわかった。堅信式が終わり、お礼のために数名の代表と一緒に司教館に大司教様を訪ねたことを覚えている。

ところで、堅信の秘跡は私たちの心と人生に聖霊を迎える機会と言われる。私たち自身が心を開き聖霊の賜物を迎え入れた時に、聖霊は豊かな恵みを与えてくださる。堅信式で宮原司教様が説教で話されていた「聖霊の七つの賜物」が私たちの人生をどれだけ豊かにしてくださっているかは、人生を振り返った時、そのひとこまひとこまに寄り添ってくださっている聖霊を感じることでわかる。ただ、いつでも神がともにおられることを意識さえすれば。



発行1周年にあたって

広報委員よりひとこと

昨年の9月号から新たに現在の形での教会ニュースがスタートして、ちょうど1年がたちました。最近川原会長のご協力も得ることができるようになって、紙面も充実してきたのではと自負しています。

引き続き、編集委員と一緒にやってくださる方も募集中！情報、企画など持ち込みも大歓迎。また、皆様に原稿依頼のお願いをすることもありますが、よろしく願いいたします。
(辛嶋)

過去、役を引き受けましたが、途中、または初っ端から投げ出してしまい、仲間に迷惑をかけてきました。今回は、自宅で出来るため、それぞれの得意の部分を仲間で力を合わせながら、それほど負担なくできています。あつと言う間の1年でしたね……辛嶋さんから誘われてよかったと思っています。
(西山)

広報委員になってから、なぜかひと月の経つのが速いこと!!!
いつも直前の準備にもかかわらず、助けて下さる方が次々に現れて、何とか休まずに発行することができています。皆様にただただ感謝です。
(足立)



教会ニュース2013年6月号より

日曜学校 10月予定表

	10月6日	10月13日	10月20日	10月27日
1年生	召命の集い 作品作り	召命の集い 作品作り	初聖体 準備	子どもミサ 準備
2.3.4年生	〃	〃	ロザリオの月	〃
5.6年生	〃	〃	聖徒の交わり	〃

編集後記

8月の終わり、親戚のお嬢さんの結婚式に出席させていただきました。若い二人の輝くような笑顔にこちらまで幸せな気持ちになれました。

司式は上智大学の増田神父様が執り行なわれましたが、結婚生活の大事な2つのKEY（鍵）として、「尊敬」と「感謝」を忘れずお互い思いやりをもつことが大切—というお話をされました。

その言葉を聞いて私は自分の結婚生活を振り返りました。

新婚時代は作った食事をいっぱい食べてくれる主人を素敵だと思っていたのに、今では、太ってきた主人が食べ過ぎるのを見るとイライラして文句を言う私・・・。

好きだったところが嫌いになるなんて、人の心は勝手なものだつくづく思い、反省しました。

結婚30年になりつつある私達夫婦。子育ても終わり、第二の新婚生活？を迎えるにあたって、神父様のお話と若い二人の幸せそうな姿が、大切なことを思い出させてくれました。

感謝。

(Y.K.)